

# Eureka XI

六年制通信 No.37 令和6年2月22日(木)号

## 憧れに個性は出る

5号館の2階を体育館側から職員室へと歩いていくと524教室前の廊下に明らかな継ぎ目があるのですが、皆さん気づいていたでしょうか。渡り廊下のところですね。その継ぎ目から西側(中学グラウンド側)が昔からあった校舎で「松柏館(しょうはくかん、実際の発音はしょうはっかん)」と呼んでいました。継ぎ目から体育館側は増築された校舎です、と言ってももう30年近く前のことですけどね。私が奉職したときは今の印刷室のあたりが職員室でした。中1の駐輪場もなかったのですよ。「松柏館」という美しい名称は5号館という無味乾燥な呼び方になりましたが、あのまま残しておけばよかったですね。大蔵省が財務省と、これまたくだらない名称変更をしたのはそれから5年後くらいでしたか。もっとも、君たちはまだ生まれていないのですがね。

『論語』に「歳寒くして、然る後に松柏の凋むに後るを知る(としきむくして、しかるのちにしょうはくのしほむにおくるるをしる)」とあります。我が愛用の『ポケット論語』では183頁です。「寒い季節になって初めて、松や柏が枯れないことがわかる」という意味です。寒い季節になってすべての樹木が葉を落としても松や柏のような常緑樹はいよいよ緑濃く決して枯れない。恐らくここから「松柏館」と名づけられたのだろうと推察しますが、若者の学び舎として実にいい名前ですね。そう思いませんか。もうこの名を知る先生方も少なくなりました。こんな話をすると、今の中学グラウンドには三重中学校の校舎である望湊館と中学用の体育館があったとか、グリーンプラザのあたりには池と明澄館があったとか、今の第2駐車場は松阪女子高校のグラウンドだったとか、昔話が止まらなくなってしまうそうです。私の教員生活のスタートは松柏館なんだよ。

さて、中学時代を「寒い季節でも緑濃き松柏の館」で学ぶ三重中高の諸君は、枯れることのない向上心を、勉強への意欲を持ち続けていることでしょうか。先日医学部受験生の面接練習をしましたが、地域医療、高齢者医療、在宅医療など三人とも大きな夢を持っていました。今の自分の勉強がやがて世のため人のためになるという明確な将来像を描き、これからも努力を続けていく決心をしているようでした。嬉しいことです。しかしながら、生徒諸君の多くはいまだ自分の将来像が描けていないと思います。だけれども、そのことで自分をダメだと思ふ必要はありません。夢が見つかっていない状態に焦る必要はありません。周囲と比べて、夢を持っていない自分、なりたいものが見つかっていない自分のことをダメだと考えて劣等感を抱いたり、過度の反省をしたり、とにかく自分のことを責めすぎるのはよくないのです。私は「ああしたらよかった」、「こうしたらよかった」など、考えたところで意味はないと思います。なぜなら実

際に「ああしていた」、「こうしていた」としても、それならそれでまたきっと新しい「ああしたらよかった」、「こうしたらよかった」が生まれるだけだと思うからです。

大丈夫、夢はこれから見えてきますよ。ただし、勉強をやめないこと。目の前の努力を怠らないこと。さすがに何の努力もしないで夢が向こうからやって来ることはありませんから。そしてとにかく自分に正直であること。人に対してではなく何よりも自分を欺かないこと、それが肝心なことです。夢が見つかっていない人は、おそらく強く憧れるもの、あるいは人に出会っていないからではないかと思います。この強い憧れは、人によって全く違います。同じ小説を読んでも映画を観ても感動するシーンが人によって違うように、何に魅力を感じるかがその人の個性と言っていると思います。どんな人になりたいと思うか、具体的に嚙咳に接することのできる人でもいいし、私淑する人でもいい、そういう人を探すことです。現実の社会にいらなくても、歴史上の人物でも本の中の人物でもかまわない。あるいは著作を通して私淑してもいいわけですから、君が求めれば必ず憧れるべき人物が見つかりますよ。

嚙咳に接する：尊敬する人の話を身近に聞く 私淑する：直接教えを受けられない人を心の師とする

### 今週のおすすめ

・浅倉秋成 『六人の嘘つきな大学生』 (角川文庫)

面白かった。一気に読みました。有名企業の就職試験で、五千人の応募者から最終面接まで残った男女六人。その六人で話し合っって内定者一人を推薦すること、これが彼らに与えられた最終選考の課題。時間は二時間半。そもそも最終選考に残っているくらいですから全員が優秀な学生です。話し合っで一人を推薦しあとの五人は辞退する、そんなことが可能なのでしょうか。30分ごとに投票しようということになったのですが、部屋に誰のものかもわからない封筒が見つかる所から話がだんだんおかしくなっていく。封筒は全部で六通。六人の過去の悪行が書かれている、らしい。詐欺をしていた、高校生の時に部活内のいじめで後輩を死に至らしめた、など。どうやら指摘された本人には心当たりがある様子。もちろん投票結果がその都度変わってくる。封筒を置いた犯人は誰か。そして最後に選ばれるのは誰か。

非常によくできた作品です。途中で男女二人が窓から月を見るシーンがあっ、月はきれいだけど実は半分しか見えていないんだよね、そんな台詞があります。私はこの本のモチーフはこれではないかと思っました。私たちは誰かをよく知っっているつもりでいるかもしれませんが、実はその半分しか見えていないのではないか。改めてそのことに気づかされませす。そのあたり非常によく計算された作品ですから、実際には起こりえない話でしょうが、なんだか勉強になりました。君たちも読んでごらん。人間は薄っぺらなものではなく重厚なものだから、人間を知ることは難しいんだね。

ちなみに(A君は老人をターゲットに詐欺をしていた。A君が言うには「騙される方が悪いだけどね」と、ここまで読むとA君の言う「騙される方」は老人のことだと思っますよね、誰だっ。しかし、これが叙述トリックとすると他の可能性が出てませす。ちょっと難しいかもしれませんが、考えてごらん。

BGMは Simon & Garfunkel の *El Condor Pasa* でした…。